

平成28年4月13日(水)

老球の細道227

学業成績の向上を目指そう

会津バスケットボール協会 室井 富仁

高校生の試練として模擬テスト受験がある。現役時代勤務していたA高校にも2年生は進研模試、1年生はハイレベル模試というのがあった。1年生の「ハイレベル」というネーミングに親近感を持った。バスケットボールでハイレベルを目指していたA高校バスケットボール部としては喜んで受けたい試練模試だと思ったからである。

A高校では模試は基本的に全員強制受験だから、模試のある土曜日は夕方から練習時間を設定しなければならないと覚悟していた(お酒の時間が遅くなる)。ところが、当時の1年生は受験しないと言ってきた。いや、受験できないということだった。なぜか、今回のハイレベル模試は今までの模試の対戦成績でベスト100番以内に入っている者しか受験資格がないのだという。まさにネーミング通りの「ハイレベル模試」であった。ショックだったのは、その100番以内にわがバスケットボール部男女13名誰一人として入っていなかったことである。私も自分の高校時代の学業成績を棚にあげて偉そうなことは言えないが、せめても半分くらいはそのグループに入っていたほしかった。

プリンストンオフェンスを創り上げた元プリンストン大学の伝説的コーチ、そしてNBAのサクラメント・キングスのアシスタントコーチであったピート・キャロルはプリンストン時代にすばらしいシーズン成績をあげたことでコーチ・オブ・ザ・イヤー(最優秀コーチ)に選ばれたことがあった。祝賀会の席上で、自分が表彰を受けたことを人々に感謝するだけでなく、人生についての大切なメッセージを自分の選手達に贈った。

「もし今晚、私がバスで家に帰ろうとするなら、私は75セントを用意しなければならない。バスの運転手はこの表彰トロフィーを気にかけてはくれないのだから・・・」

何を言いたかったか?バスケットボールでの成功は、学校、職場、あるいはスポーツ以外の人生においては通常たいした重要なことではないということである。

バスケットボールにおいてプロになれる選手は残念ながら一握りの選手である。大多数はバスケットボールとは無縁の社会人人生を選ぶことになるだろう。その時の選手の将来の職業選択、収入、そしてリーダーになる機会は主に教育レベルに基づいている。教育は一生続くが、競技活動は年齢と共に色あせる(私を見ればわかるだろう)。

学生として成功するためには、勉強し、本を読み、文章を書くことに時間を費やさなければならない。バスケットボールプレーヤーとして成功するためにも、プレイし、練習し、トレーニングすることに膨大な時間を費やさなければならない。どちらも成功するためには余計なことに時間を使っている余裕はなかなか生まれてこない。格言に「人生を大事にしたいのなら、人生は時間でなりたっていることを知れ。だから時間を大切にしなければならない」というのがある。多くの時間を無駄にしているということは、少しずつ人生を無駄にしているのと同じことである。

学校の勉強は知的能力を発達させる。そして知性はリーダーシップの最も大切な要素になる。人々は知識の豊富な人の話を聞きたがり、敬意を示す。リーダーになりたい、自分の望む仕事が見たいと思うなら、まず学業を大切にしなければならない。新年度がスタートした。指導者は教え子たちの学業努力を促し、わがバスケット部から赤鬼を退治しよう。